

Since 1976

横浜市立元石川小学校

令和5年6月30日



学校だより

7月号

HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motoishikawa/>

横浜市青葉区美しが丘4-31-1

TEL 045(902)1821

国際平和への熱いおもい

校長 野間 義晴

先日の土曜参観、ありがとうございました。学校では今、児童代表委員会のリードのもと、縦割り（異学年）グループで「あいさつ運動」が展開されています。保護者の方にもご協力をいただき、校門や各昇降口で気持ちのこもったあいさつがかわさっていて、気持ちの良い一日のスタートをきることができています。

また、6年生は「よこはま子ども国際スピーチコンテスト」に取り組みました。テーマは国際平和のために、SDGs（持続可能な開発目標）をもとに私たちができること、自分がやりたいことです。各クラスの代表児童が体育館でスピーチを発表しました。1組からは、石橋さんが、いじめは絶対によくない、だから相手を思いやり行動に移していきたいと発表しました。上田さんは、「苦手な食べ物がありますか？」とよびかけ食べ物を大切に、食から始まる世界平和を訴えました。斎藤さんは、世界には食料がいきわたっていない事実があることから「もったいない」精神から食べ残しを減らしていこうと述べていました。谷口さんは、貧困の連鎖を断ち切らなければならない。そのために子どもを助ける教育の大切さを語っていました。2組からは、井上さんがサッカーの試合での差別のニュースから、困っている人に積極的に声をかけていくことをクラスに提案しました。上野さんは、水をテーマに水を大切に使うように少しの工夫から始めようと呼びかけました。境さんは、毎日使うトイレに目を向け、安全に使えないで困っている人がいることへ思いをはせて行動を起こそうとしていました。戸根さんは、飢餓の問題を取り上げ、食料やエネルギーなど国同士で分け合っていくことが世界平和につながると主張するなど、さまざまな視点から、子どもたちが国際平和に対する熱いおもいが発信されました。スピーチに力があり、聞く者の心に大きく響いていました。

世界中、平和を願わない人はいません。しかし、そのためには平和をつくり、守っていくためにできることを自ら考え、実行していかなければなりません。今だからこそ、一人一人が平和のために、自分の考えや自分ができることを自分の言葉で表現することによって、平和に対する意識を高め、平和のために自ら実践しようとする態度を育成することが重要です。国際平和の大切さを広く世界に呼びかける、こうした本市の取組は、横浜市の子どもの国際平和の重要性に対する意識を高め、国際社会で自分たちのできることを実践しようとするグローバル人材の育成にはかならないのです。6年生の力強いスピーチから大きな力をもらいました。

